

三豊市と共に歩んだ12年

平成29年11月3日、病氣療養のため休職していた横山忠始前市長が逝去されました。平成18年の7町合併による三豊市発足から、初代市長として最前線でもちづくりを進め、三豊市と共に12年。市が歩んだ道のりと笑顔の記録を振り返ります。



2006(平成18)年 ～新生三豊市の船出～



▲行革推進本部会議の様子



▲就任後の初登庁

7町合併により三豊市が誕生、初代市長には横山忠始氏が就任。就任後すぐに、課題である行財政改革に取り掛かりました。



▲旧7町の町長によるテープカットで開市

2007(平成19)年 ～「これまで」からの脱却そして、「これから」へ～



▲市内全域での運行を開始

行財政改革を進めつつ、先手の福祉と位置づけるコミュニティバスが運行を開始しました。また、三豊市の知名度向上に貢献する日本一人やものを表彰する日本一名誉表彰が始まったほか、かねてより交流のある北海道洞爺湖町、徳島県美波町、韓国・陝川郡との友好都市交流協定を締結しました。



▲徳島県美波町



▲日本一名誉表彰式



▲韓国・陝川郡



▲北海道洞爺湖町

2008(平成20)年 ～自主自立に向けたまちづくりのビジョンを～

10年間のまちづくりの考え方と施策の大綱を取りまとめた「三豊市新総合計画」を策定しました。また、ごみを処分するのではなく活かすことを目的に、『ごみは、すべて資源』のスローガンをかけ、ごみの18分別を開始しました。



▲ごみ処理技術検討委員会



2009(平成21)年

～“豊かさ”をみんなで育む市民力都市を目指して～



▲元気野菜づくり。上質な野菜を収穫



▲宗吉瓦窯跡史跡公園落成式には大勢の人が詰め掛けました



▲県内の2週間分の水道水をまかなえる宝山湖

宗吉瓦窯跡史跡公園と宗吉かわらの里展示館がオープン。また、平成11年の着工から10年、香川の水がめ「宝山湖」もこの年完成しました。このほか、笠田高校と市が共同で実施した「生ごみリサイクル元気野菜づくり」など、有機肥料の効能試験事業にも取り組みました。

2011(平成23)年 ～次のステージに向かって強力に歩みを進める～

300人を収容できる多目的ホールを備えた市民交流センターが完成。市や旧町の歴史を将来に引き継ぐため、公文書などを保存する文書館が開館しました。また、関西・三豊市ふるさと会が発足し、郷土三豊市との連帯が一層深まりました。



▲市文書館の開館に併せて、施設を見学



▲関西・三豊市ふるさと会



▲市民交流センター



▲市民の皆さんとの交流を大切にしていた

2010(平成22)年 ～市民力でつくる貢献型社会～

市の歌「七宝のかぜ」が完成し、記念式典&中西圭三ミニコンサートや、中四国・瀬戸内クルージングサミットを開催しました。このほか、関東・三豊市ふるさと会の発足や、交流の続く中国・三原県、アメリカ・ワウパカ市との友好都市交流協定の締結も行いました。



▲市の歌「七宝のかぜ」が完成しました



▲中国・三原県



▲クルージングサミット



▲関東・三豊市ふるさと会

2012(平成24)年 ～市民力で創る田園都市みとよ～

詫間地区をモデル地域に指定し、市民によるまちづくりの担い手として『まちづくり推進隊詫間』を設立。地域内分権がスタートしました。また、東証一部上場企業(株式会社ナック)と企業進出に関する協定を締結しました。公共施設への企業進出は県内初。このほか、大阪鶴見花き地方卸売市場などでトップセールスも行いました。



▲まちづくり推進隊詫間が設立

市への企業進出に関する協定書調印式



▲株ナックと協定締結



▲マーガレットのトップセールス

市長へのメッセージ

三豊市が誕生してもうすぐ丸12年が経とうとしています。突然の訃報に正直驚きました。三豊市の礎を築かれたその功績は誠に大きいと思います。一市民として感謝の念に耐えません。

(市内・55歳男性)

県外に出て50数年。帰省の折、母から横山市長は市民のことを考えてくれる立派な市長さんだと聞いておりました。私は敬老の祝いの際、お目にかかっただけですが、話しぶりや温厚な人柄とその態度で、母の言うとおりの市民に頼りにされる市長さんだと思いました。横山市長と母の記念写真が懐かしく、人生如夢を感じます。長い間お世話になりありがとうございました。謹んでご冥福をお祈りします。

(大阪府・74歳男性)

突然の訃報に接し、かけがえのない柱石を失った思いに寂寞の感を禁じ得ません。横山市長は私の小学校の7期後輩で、香川県議、詫間町長、初代三豊市長を歴任(3期)、ふるさとの発展のためにご尽力されました。その姿は、同郷の後輩として頼もしい限りでした。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

関東・三豊市ふるさと会会長 小川秀興

逝去された横山忠始前市長をしのび、市内外から多くの言葉が寄せられました。その一部を紹介します。

父母ヶ浜を湘南に負けない場所にしたいと熱く語っておられた姿は今でも忘れられません。また、地域の伝統や文化などを継承しながらも、その時代をしっかりと見据えて改めるところは改め続けることが重要なんだと熱く語られていました。

これからも三豊市のために必要な方だと思っていましたのに、本当に残念のきわみです。どうか安らかに休みください。

(市内・72歳男性)

横山市長は市内で行われる小さな行事にも積極的に参加され、市民に身近な存在でした。このような身近に感じられる市長はなかなかいないと思います。おそらく天国へ行かれても三豊市のことが頭から離れていないと察しますが、天国で安らかに過ごしてください(これからの三豊を見守ってください)。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

(市内・55歳男性)

横山忠始市長は、三豊市の発展と同時に、市長として空理空論に惑わされることなく、現実主義の実務家として立派な業績を残されました。また、地道な努力を重ね、誠実を旨とした行動力の持ち主でした。郷土、三豊市の発展に欠かせない人材を願う一人として、在りし日をしのび、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

関西・三豊市ふるさと会顧問 佐名木定夫

前三豊市長 横山忠始氏お別れの会のお知らせ

- 日時 1月13日(土) 午後2時~3時30分(開場は午後1時)
 - 場所 市文化会館マリノウェーブ
 - 内容 黙祷、主催者あいさつ、献花など
- ※誠に勝手ながら、供花・供物・香典は固く辞退申し上げます。

記帳のご案内

- 日時 1月4日(木)~11日(木) 午前8時30分~午後5時
 - 場所 本庁舎および各支所
- ※土日・祝日は本庁舎の休日受付で記帳できます。

問 秘書課 ☎ 73-3001



※混雑が予想されますので、できるだけ乗り合わせてお越しください。

2014(平成26)年

~次なるステージに向けて 行政機能の効率化~

次世代に向けての投資が始まりました。まずは、市民の生命・財産の保護を最優先し、危機管理センターの建設をスタート。以後、新学校給食センター、南部火葬場などにも着手しました。また、豊中コミュニティセンターと不動産の滝ントリーパークの指定管理者にまちづくり推進隊豊中を選定しました。



▲まちづくり推進隊豊中が豊中コミュニティセンターなどの指定管理者に

2013(平成25)年

~田園都市みとよの創造~

市内全町でまちづくり推進隊が発足し、「市民力」と「地域力」が連携する地域内分権が本格的に動き出しました。また、戦争の悲惨さを後世に伝えるため、三豊にゆかりのあった190人から太平洋戦争の体験談を集めた「太平洋戦争と三豊」を発刊しました。

栗島では、瀬戸内国際芸術祭が開催されました。



▲まちづくり推進隊が全町で発足



▲戦争の悲惨さを後世に

▲瀬戸芸では栗島の島民の皆さんが盛り上げてくれました



2015(平成27)年

~強く やさしく 楽しい 田園都市みとよ~

戦後70年の節目の年、5月と8月に平和祈念講演会「太平洋戦争と三豊」・展示会を開催。詰め掛けた聴衆は平和の尊さを心に刻みました。また、学校再編に伴い、財田上小学校、財田中小学校、辻小学校、河内小学校、大野小学校、神田小学校で閉校式が行われ、長い歴史に幕を下ろしました。



▲平和祈念講演会「太平洋戦争と三豊」展示会



▲6つの小学校で閉校式



2016(平成28)年

~みずみずしい田園都市を目指して~

市制施行10周年を迎えて記念式典を行うとともに、市内各地で記念事業が数多く開催されました。また、山本小学校と財田小学校の新校舎、災害対策拠点となる危機管理センターが完成、供用を開始しました。このほか、南部学校給食センター、南部火葬場など今までの施設を整理統合し、新しい時代に向かう体制を作りました。



▲市制施行10周年記念式典

▼市制施行10周年記念事業「三豊発!! さぬき軽トラ市 & 大収穫祭」



三豊市が進むべき道を全力で切り開いてきてくれた横山市長、本当にありがとうございました。